

## ① 国指定等

## ア 重要文化財

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
太刀	八幡	柞原八幡宮	昭25. 8. 29	銘国宗 長さ 75.8cm	鎌倉時代
太刀	"	"	"	銘源国(以下一字並年号不明) 長さ 108cm	"
薙刀直シ刀	"	"	"	銘表「国重八幡大菩薩」 裏「天満大自在天神」	鎌倉時代末期～南北朝時代
銅造仏像	"	"	"	社伝 阿弥陀如来立像 金剛仏 重さ11.25kg 像高30.3cm	白鳳時代
木造普賢延命菩薩坐像	"	大山寺	昭50. 6. 12	樅材 像高 87.7cm	平安時代
後藤家住宅	荷尾杵	個人所有 (大分市)	昭50. 6. 23	18世紀中頃の庄屋の母屋 寄棟造り 茅葺	江戸時代
白壇塗浅葱糸威腹巻 兜・大袖・小具足付	八幡	柞原八幡宮	昭55. 6. 6	胴高 32.3cm 草摺高 28.5cm 兜鉢高 18.0cm	室町時代末期
木造大日如来坐像	上野丘	金剛宝戒寺	平 3. 6. 21	文保2年(1318) 康俊作 檜材寄木造 像高 303.8cm	鎌倉時代
柞原八幡宮文書	八幡	柞原八幡宮	"	由原宮領関係史料(213通) 元和7年 (1621)	平安・鎌倉・南北朝・室町・江戸
帆足家伝来田能村竹田関係資料	大分市 美術館	大分市	平 6. 6. 28	紙本墨画淡彩花卉図外25点	江戸時代
柞原八幡宮	八幡	柞原八幡宮	平23. 6. 20	本殿・東宝殿・西宝殿・申殿・拝殿・楼門・西門・南大門・東回廊・西回廊 の10棟 附として宝蔵、八王寺社	江戸時代～明治時代
大分県府内大友氏遺跡出土品	大分県立 埋蔵文化財 センター	大分県	令 1. 7. 23	大友氏居館周辺の町屋や寺院跡での出土品 計1269点。中国や朝鮮半島、東南アジア産 の陶磁器、キリスト教に関わるメダイ、ガラス製のコンタ。	戦国時代
紙本淡彩稻川舟遊図	大分県立 美術館	"	昭37. 6. 21	田能村竹田筆 文政12年(1829)の作。	江戸時代
絹本着色歳寒三友雙鶴図	"	個人所有	昭38. 7. 1	田能村竹田筆 天保3年(1832) 賴山陽、雲華、角田九華の賛がある。屈曲する梅の幹 の下に双鶴を配し、椿竹を添える。	"

イ 史跡

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
豊後国分寺跡	国分	個人所有 大分市	昭 8. 2. 28	国分僧寺 追加指定 (昭58. 9. 8 昭61. 5. 28)	奈良時代
大分元町石仏	元町	共有 (大分市)	昭 9. 1. 22	薬師如来坐像は11世紀後半頃～末の作風。 昭46、52、53、61年～平7年、平23～27年に 保存修理。	平安時代
高瀬石仏	高瀬	個人所有 (大分市)	"	石窟を彫り込み奥壁に東を向いて彫られる	平安～鎌倉時代
千代丸古墳	宮苑	"	昭 9. 5. 1	装飾古墳 横穴式石室	古墳時代後期
築山古墳	本神崎	八幡神社	昭11. 9. 3	前方後円墳 箱式石棺	古墳時代中期
古宮古墳	三芳	大分市	昭58. 5. 11	石棺式石室墳 九州では他に例なし	終末期古墳 (7世紀)
亀塚古墳	里	"	平 8. 3. 28	前方後円墳 全長約116m	古墳時代中期
大友氏遺跡	頭徳町 他	"	平13. 8. 13	大友氏館跡のほか、旧万寿寺地区、上原館 跡、唐人町跡、推定御蔵場跡からなる。	戦国時代
横尾貝塚	横尾	"	平21. 2. 12	縄文時代の集落の移り変わりが復元でき る。 縄文時代からの地形と自然がよく残されて いる。	縄文時代
里官衙遺跡	里	個人所有 (大分市)	令 4. 11. 10	大分市東部に位置する飛鳥時代から奈良時 代にかけての官衙遺跡。	飛鳥時代～奈良時代

ウ 天然記念物

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
柞原八幡宮のクス	八幡	柞原八幡宮	大11. 3. 8	自生のクス 樹高約30m 幹周約18.5m	
高崎山のサル生息地	神崎	大分市	昭28. 11. 14	都市近郊におけるニホンザルの自然的集団	

エ 無形民俗文化財（記録選択）

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
鶴崎踊	鶴崎	保存会	昭61. 12. 17	記録保存の措置を講ずべきものとして選択	※県選択無形民俗文化財 ※市指定無形民俗文化財

## 才 登録有形文化財

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
大分銀行赤レンガ館 (旧二十三銀行本店・旧府内会館)	府内町	(株)大分銀行	平 8. 12. 20	鉄筋コンクリート造2階建 スレート及び瓦棒葺	大正2年(1913)
太田缶詰工場主屋	白木	(株)秀観	平11. 6. 7	木造2階建 寄棟造 洋風の玄関特徴 接客用座敷や和室の居住部分と工場事務室併設	明治41年(1908)
太田缶詰工場土蔵	"	"	"	切妻造の2階建て 外壁漆喰仕上げ	"
太田缶詰工場石倉	"	"	"	外壁周りを石造 軒周り漆喰仕上げ 正面左右に2つ出入り口があるのが特徴	大正期
荻本家住宅主屋	坂ノ市	個人所有	平17. 7. 12	木造平屋建一部2階建 瓦葺 建築面積244m <sup>2</sup>	江戸末期
帆足家分家住宅 「松石不老館」主屋	中戸次	"	平17. 11. 10	入母屋造、桟瓦葺、木造2階建 通り土間をもつ商家建築の形式	明治39年(1906)
帆足家分家住宅 「松石不老館」新座敷	"	"	"	寄棟造、桟瓦葺、木造平屋建 南側に広縁をとり中庭を望む門及び塀は桟瓦屋根	明治中期
帆足家分家住宅 「松石不老館」道具蔵	"	"	"	切妻造、桟瓦葺、土蔵造2階建 切石積みの上に建つ 海鼠壁	"
帆足家分家住宅 「松石不老館」質蔵	"	"	"	切妻造、桟瓦葺、土蔵造2階建切石積みの上に建つ 海鼠壁桟瓦屋根の板塀及門	"
帆足家分家住宅 「松石不老館」湯殿及び 風呂	"	"	"	湯殿を南北棟、風呂を東西棟とし、両棟が接して建つ寄棟及び入母屋の屋根、共に桟瓦葺	"
帆足家分家住宅 「松石不老館」井戸上屋	"	"	"	切石積みの基壇の上に四方に柱を立て、切妻造、桟瓦葺 切石を長方形の井桁に組む	"
帆足家分家住宅 「松石不老館」穀物蔵	"	"	"	切妻造、桟瓦葺、土蔵造2階建 引戸口2箇所 全長に吹き放ちの下屋 切石積みの上に建つ	明治22年(1889)
帆足家分家住宅 「松石不老館」味噌蔵	"	"	"	切妻造、桟瓦葺、木造平屋建 下屋北側2間半分を壁で囲む 切石積みの上に建つ	"
帆足家分家住宅 「松石不老館」裏二階	"	"	"	寄棟 桟瓦葺 木造2階建 裏木戸中央に一間幅の観音開きの木戸口	明治中期
帆足家分家住宅 「松石不老館」門	"	"	"	間口は2.7m、棟門の形式 桟瓦葺、木造両脇に塀を付け、門脇に潜戸を設ける	"
帆足家分家住宅 「松石不老館」塀	"	"	"	切石積みの上に建ち、腰を下見板張り、上部を真壁造、漆喰塗り 2箇所格子窓、桟瓦葺屋根	"
帆足家本家住宅 「富春館」主屋	"	"	平18. 11. 29	木造2階建 一部平屋 入母屋造 桟瓦葺 南側中央式台玄関を設け 西側に一段高い座敷	慶応元年(1865年)
帆足家本家住宅 「富春館」宝蔵	"	"	"	土蔵造2階建 切妻造 桟瓦葺 1階2室2階1 室外壁漆喰ぬり 腰を海鼠壁	大正期
帆足家本家住宅 「富春館」質蔵	"	"	"	土蔵造2階建 切妻造 桟瓦葺 1階2室2階1 室外壁漆喰ぬり 腰を海鼠壁	大正5年(1916)
帆足家本家住宅 「富春館」洋館	"	"	"	木造2階建 寄棟造 桟瓦葺 南側に洋室 東側に店舗を付属 モルタル壁 石造風	"
帆足家本家住宅 「富春館」離れ	"	"	"	木造平屋建 寄棟造 桟瓦葺 南側に廊下 北側中央に8畳座敷 書院風のつくり	昭和12年(1937)
帆足家本家住宅 「富春館」表門	"	"	"	質蔵と洋館の間に建つ 二間幅の棟門 木造 切妻造 桟瓦葺 両脇に袖塀	江戸末期
帆足家本家住宅 「富春館」中門	"	"	"	主屋式台玄関の西側 間口1間 木造腕木門 切妻造 桟瓦葺 両脇に袖壁	"

帆足家本家住宅 「富春館」塀	"	"	"	主屋南側の庭の南側と西側を囲い、質蔵北西隅から宝蔵南まで延びる。南東隅に腕木門	大正期
浄土寺本堂	王子西町	浄土寺	平20. 10. 23	木造平屋建 入母屋造 本瓦葺 大規模な七間堂	嘉永2年 (1849)
浄土寺庫裏	"	"	"	木造2階建 寄棟造妻入桟瓦葺 床つきの座敷・奥座敷	江戸後期・末期改修
浄土寺玄関及び渡廊下	"	"	"	木造平屋建 本堂と庫裏を繋ぐ 入母屋屋根の玄関	江戸末期
浄土寺大弁財天石宮	"	"	"	石造 庫裏の西北 庭園内に建つ 一間社流造	明治44年 (1911)
浄土寺一伯公廟	"	"	"	木造平屋建 入母屋造妻入桟瓦葺 松平忠直の墓碑を安置する	江戸後期 大正14・昭和49移築
浄土寺表門	"	"	"	木造 左右袖塀付 本堂正面に建つ四脚門	明治後期 昭和26改修49移築
浄土寺北門	"	"	"	木造 瓦葺 柱上に皿斗を置き、その上に台輪をまわす	大正14年 (1925) 昭和49年移築
植木家住宅主屋	王子中町	個人所有	平22. 5. 20	木造2階建入母屋造 1階に出格子彫刻入り持送り市内中心部に残る数少ない商家 安政元年 (1854)	安政元年 (1854) 頃
植木家住宅離れ	"	"	"	入母屋造桟瓦葺 床・棚・書院を構え 意匠に凝る	昭和4年 (1929)
植木家住宅離れ控えの間	"	"	"	入母屋造、桟瓦葺、床・違棚・平書院をつけ、下屋庇の意匠が数寄屋風。渡り廊下が付随する。	"
旧豊予要塞司令官官舎	佐賀関	"	平30. 11. 2	大正15年 (1926) に発足した豊予要塞の司令官官舎。大正14年 (1925) から大正15年 (1926) 頃の建築で、洋風の暖炉のある応接間がある。	大正14年 (1925) ~ 大正15年 (1926) 頃
関崎灯台	"	海上保安庁	令 4. 6. 29	佐賀関半島東端に建つ灯台で、円筒形の灯塔に平面扇形平屋建ての付属舎が付く。明治34年 (1901) に作られ、全国で4基のみ現存する全鉄造灯台の一つ。鉄造3階建て、高さ11m。	明治34年 (1901)
旧大分県立大分図書館 (アートプラザ)	荷揚町	大分市	令 4. 10. 31	建築家磯崎新の初期代表作。鉄筋コンクリート造三階建て、地下一階の図書館建築。	昭和41年 (1966)

#### 力 登録記念物

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
黒ヶ浜及びビシャゴ岩	佐賀関	国	令 5. 3. 20	蛇紋岩の黒石に覆われた海岸で、江戸時代から地誌等に紹介されるなど、古くから景勝地として知られている。	